

第六期長期計画・第二次調整計画策定委員会 傍聴者アンケート

第1回実施分（令和6年7月25日開催） 自由記載欄

【傍聴者 対面7名・オンライン31名】

○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。

・二六中統廃合の検討が六長調に載ってしまったのは、コロナ禍で職員が市民の声を聞けなかったからで白紙にするべき、という考えが合理的だとすると、他の施策や計画もコロナ禍で同様だったことを考えると六長調の多くを白紙にしないといけなくなる。別の理由を考え直したほうがいい。

・①市民の命に係わる交通安全の論点が少なすぎる。

【特に】 園児・小中学生・障がい者・高齢者、子どもを乗せた電動アシスト自転車などの通行の安全は十分議論し計画に反映すべきと考える。子どもファースト・弱者保護ファーストでも大事な視点である。都市計画のような全体設計の話とは異なるが武蔵野市全体の安全へのインパクトは大きい。

【具体的には】 通行の安全のための大規模マンション荷捌き一時駐車スペース規制強化と電線地中化を長期計画に入れることを要望する。

【例えば】 市内全域に有効な計画となると思うが、例えば、現在、美大通りの住民が三井不動産グループの大規模マンションの建設で紛争状態にある。委員会でも取り上げられた話である。住民は、100戸ぐらいのマンションの荷捌き一時駐車スペースが1台であることで誘発する通行リスク回避のため2台にすることを求めており、併せて歩行者通行の邪魔となる電柱を電線地中化も求めている。現在の通行者に加え200人～300人の新住民通行者が増えるところによっても更に想定リスクは急増する。

三井不動産グループでは「街に根差した良質なコミュニティを創出し、良質なタウンマネジメントをおこなっていくことで、「経年優化」と呼び建物の完成がゴールではなく、むしろスタートとし、すまいに生まれるすべてのくらしに、ずっと寄り添っていく」という、街づくりを大切にしている武蔵野市にフィットしたビジョンを持っているにもかかわらず、基本構想の段階で現在の基準をクリアしており、見直しを否定している。地下増設によって問題は全て解決されるにも拘わらず、超短期重視・収益重視で話が平行線状態となっている。隣の大規模マンション吉祥寺レジデンスでは、既存住民と業者、武蔵野市での調整がうまくいった。この例のように既存住民や引っ越してくる新しい住民と一緒にコミュニティを築いていけるように、業者に負けないように、しっかりした、長期的視点にたった基準をつくってほしい。

【荷捌き一時駐車スペース】 行政では大規模マンションの荷捌き一時駐車スペースの基準見直しや行政指導を強化していくと承知している。そんな中で業者が住民の安全を長期的に見ない姿勢があり、せめて武蔵野市として、市民を守るように、基準を大きく見直し業者を指導してほしい。

【基準や条例】 人命が脅かされる安全に影響する基準は、交通量の最適化の基準ではない。平均値

として平準化すべきではなく、あらゆる危険や不慮の事態を阻止するため、ピーク時でも安全が脅かされる時間帯を無くすようにすべき。通行者に危険な状態を恒常的につくらないようにすることが肝心である。その次に交通渋滞を最小限にすることも考慮すべきである。

約 100 世帯の荷捌き一時駐車スペースが 1 台の場合で、生活物資配送トラック駐車中に、ネット通販宅配車、タクシー(帰宅・迎車・来客等)、高齢者・障がい者送迎車、駐車場入出待ち車(双方向でないケース)、外部駐車場を借りている人の一時駐車、ゴミ収集車などの臨時駐停車が少なくとも 1 台重なっても、路上駐車などで通行者の脅かされないようにすべきと考える。

荷捌き一時駐車スペース台数を決めるときに、戸数のパラメータだけでなく生活サイクルなどを考えたピーク性や戸建てと違うオートロック・管理人預かり・エレベータ数(含. 荷物専用があるか)・宅配ボックス整備・縦持ち専用路の整備などによる複数戸同時配達の見直しは前提である。さらにその計算のときに、一般的交通量を想定した平均的基準で考えるのではなく、実際の交通量を測定して考えるべき。特に抜け道になっている交通量の多い一方通行の道で(例えば美大通りでは北への道がないため交通量が以上に多く、死亡事故も複数発生しており、ガードレール破損事故も多い。公園からの子どもの飛び出しリスクも高い)、一般的な交通量で考えるのは安全の視点から無意味である。例として挙げた美大通りのケースでは 100 戸の大規模マンションの荷捌き一時駐車スペースが 1 台で足りないのは自明であるにも関わらず、三井不動産グループは短期的に考えているので是非行政として基準や指導ができるように議論いただきたい。民間同士の紛争の前に。

【予算】 これは事業者が費用負担するため市としての持ち出しは少ないと思料する。

【電線地中化】 電線地中化も東京都で推進していく方針と承知している。併せて積極的に美観というより歩行者空間確保という安全の観点から必要性が高いところから実施を計画してほしい。東京都や電力会社と連携して地中化が進めば歩行者の安全は大きく向上し、街としての美観もあがる長期的な計画に必須の課題と考える。

② 2 段式駐輪機・3 段式駐車機

住宅街での近隣住民への健康被害(睡眠障害、心疾患等)にもつながる、24 時間出し入れ時に騒音が発生する 2 段式駐輪機や 3 段式駐車機などの規制強化を要望する。市全体にインパクトがある。

③ 大規模マンションでの自主管理公園

形式的でなく、緑化対応の数字のためだけでなく、そこで遊んだりする子どもたちの安全や荷捌き一時駐車スペースや駐輪スペースなどの設置も考慮してガイドしてほしい。例えば、交通量の多い道路に接する管理公園は子どもの交通事故リスクもある。

・高齢者の就労支援 学校統廃合

- ・かなり丁寧に策定した第六期長期計画調整計画だが、市長交代により再度丁寧に市民意見交換等をしてしながら調整するとのことその労力に頭が下がる。

一方で論点にしていくという内容が「市長の思いつき」感が強く、軽いという印象。

- ・二次調整にあたり、策定委員から市長へしっかりと説明を求めるやり取りを傍聴できたのは大変良かったです。多くの市民に議事録を読んでほしいし、このやりとりだけでも Zoom の録画を公開して

いただけたらよかったです(議事録の文字では表しきれない微妙なニュアンスもあろうかと思うので)。

市長公約だけを見ている市民には伝わっていない「(市長公約といえども)実現可能なこと/不可能なこと」を今後の策定過程で整理しつつ、二次調整で「実現したほうがいいこと/実現不可能なこと/仕組みや公約内容を変えられれば実現に近づけること」を中立的な立場から示していただけたらありがたいです。また、策定委員にその立場を担っていただけることによって「どうして市長公約なのに市職員は実現の努力をしないのだ」という批判を回避することができると思います(市職員の立場からは言いにくいと思うので)。

そのうえで、今後、長期計画と市長公約との関係について市民・市議会議員・市職員・策定委員など多くの人たちが考えていくことが必要なのかなと思いました。

資料9の「武蔵野市第六期長期計画・第二次調整計画 テーマ別論点集」がとても見やすく、課題や参考事例もまとめられておりとても参考になりました。作成してくださった職員のみなさまありがとうございます。いち市民ですが学びになります。

「子育て世代への外出支援」について。レモンキャブを活用することには制度上問題があるのは市長選挙中から気になっていたのも、この点が明らかになってよかったです。策定委員とのやりとりで市長が「レモンキャブは福祉の枠組みなので、子育て世代への外出支援も福祉で線引きする」というようなことを発言していたと思いますが、だとしたら出産前～1歳までの外出支援だけでは足りなく、障害や持病などで定期的な通院が必要な18歳未満の子どもと保護者にも範囲を広げるべきなのではないかと思いました。

「今後の学校改築のあり方の検討」について。市長公約は「二中・六中の統廃合は白紙に」でしたが、結果的に二中・六中だけでなく統廃合検討の対象が全市立中に広がることになり、市長は率先して火中の栗を拾いに行ったのだなと理解しました。策定委員とのやりとりで市長が「コロナ禍で市職員が地域に出られず、地域の方に丁寧な説明ができない状態で二中・六中の統合案が出てしまったので地域に衝撃が走った」というようなことを発言していたと思いますが、だとしたら今後各地域にどのような説明や意見聴取が必要なのか慎重に考えるべきだし、場当たりの意見聴取は更なる混乱を招き、冷静な議論ができなくなるのではないかと思います。具体的に指摘すると、7/30から各中学校で始まる「みんなで語ろう 武蔵野市の未来の学校づくり」。ワークショップといいながら各回たったの1時間でどんなアイディアがまとめられるというのでしょうか？正直、「地域の意見を聞きました」のアリバイ作りに使われてしまうのではないかと危惧しています。

「吉祥寺イーストエリアのまちづくり」について。市長は当該地域にお住まいなので個人的に思うところは色々あるかと思いますが、市長の立場で、法令順守しているであろう事業者に対して「堂々とキャバレービルを建てると宣言している」と批判的ニュアンスで言うのはマズいのではないのでしょうか……。事業者と地域の間に入ってやりとりをする市職員の足を引っ張るようなことがないようにご注意いただきたいです。

また、公共駐輪場について市長は「休日により使われない定期利用の駐輪場は3・4階の駐輪場や外周部の駐輪場にして、駅近の駐輪場を一時利用にしてはどうか」と提案していたような気がするのですが、通勤・通学で使用する定期利用の市民を不便な駐輪場から毎日駅へ歩かせるのはあまり現実的でないような気がします。論点集にも記載のとおり「歩いて楽しいまちづくり」を目指すならば、来

街者の一時利用を3・4階の駐輪場や外周部の駐輪場にするほうが理にかなっているように思います。本町コミセンを複合化して中高生世代の居場所を確保するのは必要なことだと思います。中高生世代が自然と地域に愛着を持てるような、子どもにとって居心地のよい居場所ができるよう議論が進むことを祈ります。

- ・子育て世代への外出支援は狭いテーマだと感じました。子供達の居場所作りや教育など、もっと幅広いテーマで取り組むべきではないかと思いました。限られた時間の範囲内ではありますが。

学校改築に関しては、生徒や地域の方々への影響、財政的な負担を考慮して改修にしてはどうかとの声がずっと出ているのに、それが資料に全く反映されていなかったのも、今までの市民との対話は何だったのか、とがっかりしました。

- ・私事ですが、私の母（77才）はコロナ禍でWPWを悪化させ、心臓カテーテル手術をした結果、生活費が稼げなくなり、定年金と私の援助で暮らしています。体力が低下してしまったのですが、シルバー人材センターに登録だけして、「働きたい、働きたい、でも階段が上げられない」と泣かれます。

「年金＋5万」ではとても暮らせません。ケアマネさんだけが頼りです。もっと高齢者が安心して住み続けられる、社会参加できる支援はないでしょうかと思いました。

○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。

- ・音もクリアでストレスなく傍聴できました。ありがとうございました。

- ・第2次調整計画はこれまでになく短期集中の計画策定であり、委員をはじめ事務局の皆さまは本当に大変かと思いますが、市民委員による闊達な議論を期待しています。

市長との議論を聞きとくに2点コメントいたします。

①子育て世代への外出支援に特化した形での補助をする必要があるのかには疑問があります。子育て世代の外出が重要であり、その支援をするべきという問題意識は共有します。しかし、それは子育て世代が使いやすいような道路整備や公共交通機関の整備によってなすほうが誰にとってもより使いやすいものとなります。また、委員も指摘していたように、とくに市長からの返答にあった「外出理由による制限」は行うべきではないのではないのでしょうか。外出理由は人によって何が重要かは異なります。また理由による制限を行うと、その確認やクレーム対応にも大きな行政コストがかかります。そのため直接的な外出支援を実施するにしても簡素に行うべきでしょう（これは、市独自の事業であるレモンキャブにおいて理由制限が行われていないことから理解できます）。

②高齢者への就労支援についてですが、就労を含めた社会参加の促進という議論はより進む高齢化を考えるうえで重要です。しかし、(A)公約にあるような経済的メリットを根拠に議論することは、ときに働き損を感じさせかねず、本来の政策目標（高齢者の社会参加による健康の維持および

び社会貢献)を毀損しかねません。実際、稼得によって非課税対象から外れる可能性があるなど他の制度との整合性を踏まえて議論する必要があります。高齢期の就労は経済面も重要です(経済面への不安が高齢期就業の一番の理由ではありますが)が、それ以上に健康面や社会参加による社会貢献という側面はより重要であり、政策目標を明確にした議論を行うべきと考えます。また、(B)加齢による労働/作業時の事故の問題を考える必要があります。近年、労働災害の高齢化という問題が指摘されています。くわえて、シルバー人材センターでの活動がその典型であるように、福祉的就労では労災の対象とはなりません。事故を未然に防ぐ age-friendly な職場づくりとともに、事故をおきたときの対応もあわせて議論するべきです。(C)そのうえで、委員のご指摘のように民間事業も多くなっている中において、市の役割が何かをより積極的に考える必要があります。私見では、age-friendly な職場づくりのためのノウハウの共有や雇用者への市独自の支援、マッチングサービスへの支援、および、高齢者側への成功体験の共有などが考えられるでしょうか。よいアイデアがでることを期待します。

最後に委員長がおっしゃった「(委員会のタスクは) 答申をすることであり、市長がどう感じるかを付度する必要がない」、という点は重要だと思います。もちろん武蔵野方式は住民参加とともに議員参加、職員参加によるものですので、職員でもある市長を含めての忌憚のない議論がされるものと思います。長期計画第2次調整計画が、武蔵野方式による市民自治の理念を体現した計画となることを願っています。

- ・「何かが起こるたびに変更していたらきりががないため、前回の課題を中心に議論し、二次調整計画の議論をしてもよいが計画に反映するのは控える」というガイドが冒頭あったようだったので、今回の委員会の意味が半減するのではないかと心配したが、話が進むにつれて前向きに検討していただけるだろうという印象を受けた。「抽象的言葉でなく、もう少し突っ込んで議論していくよい機会」「論点集にもとづき、長期的視点から議論の結果によって予算も変えていく必要がある」「東町3丁目のマンションについて、しっかり支援していく」等々は心強い発言があった。
- ・オンラインについて、今まで何度か市の委員会の傍聴をしまして心配したが、音声が大変聞き取りやすかった。
画面について、全体画像よりも、市長、委員長のほかに発言者を映してくださったらさらに臨場感があったと思う。オンラインの傍聴参加ができて、長期計画第2次調整計画がとても身近なことと感じられました。市民の大勢の参加があればよいと思いました。ありがとうございました。
- ・二次調整の策定委員会は、オンライン傍聴が更に便利になりありがとうございました。急な天候不順で直前の傍聴申し込みができ、早速助かりました！
- ・オンラインの開催が多いですが、パソコンを持っていないため、対面でできないか検討してほしいと思います。世界的なシステム障害にもあったように、パソコンの不具合もあるし、実際今回も通信状況が悪く何を言っているか聞き取れないこともしばしばあったので、対面で開催する意義はあると思います。委員の名簿には誰が委員長・副委員長か書かれていなかったのを書いてほ

しいです。テーマの内容からも市役所の東館でしてほしいです。もともと色別のいすにはなかったもので、もとのいすにしてほしいです。写真撮影はプライバシー保護のため、傍聴者が写りこまないよう配慮してほしいです（カメラは1台で十分では?）。いすは座る場所なのでパソコンを置いて動かさないでほしいです。

- ・学校改築は、六長調の前に、小中一貫校問題でかなり長く議論したと思うのですが、（その結果の学校施設設備計画だと思うのですが）教育内容なども含めて白紙に戻して議論するのかと思うと、時間が足りない気がします。

小池都知事が「中学校も35人学級にする」という公的を出されていたと思います。そうすると、武蔵野市も少人数学級実施を視野に入れて検討していただければと思います。中学生の40人学級は窮屈だし、スピーキングのイヤマフの音もれも近すぎて懸念されるという話を耳にしています。

（※文字及び文章はアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。）